

信州大学のDX推進戦略



情報・DX
推進機構

令和5年5月

Agenda

DX推進体制の整備

体制の充実

自治体・企業からの事務スタッフ協力

事業資金調達

DX推進人材の確保

大学職員向けDX研修

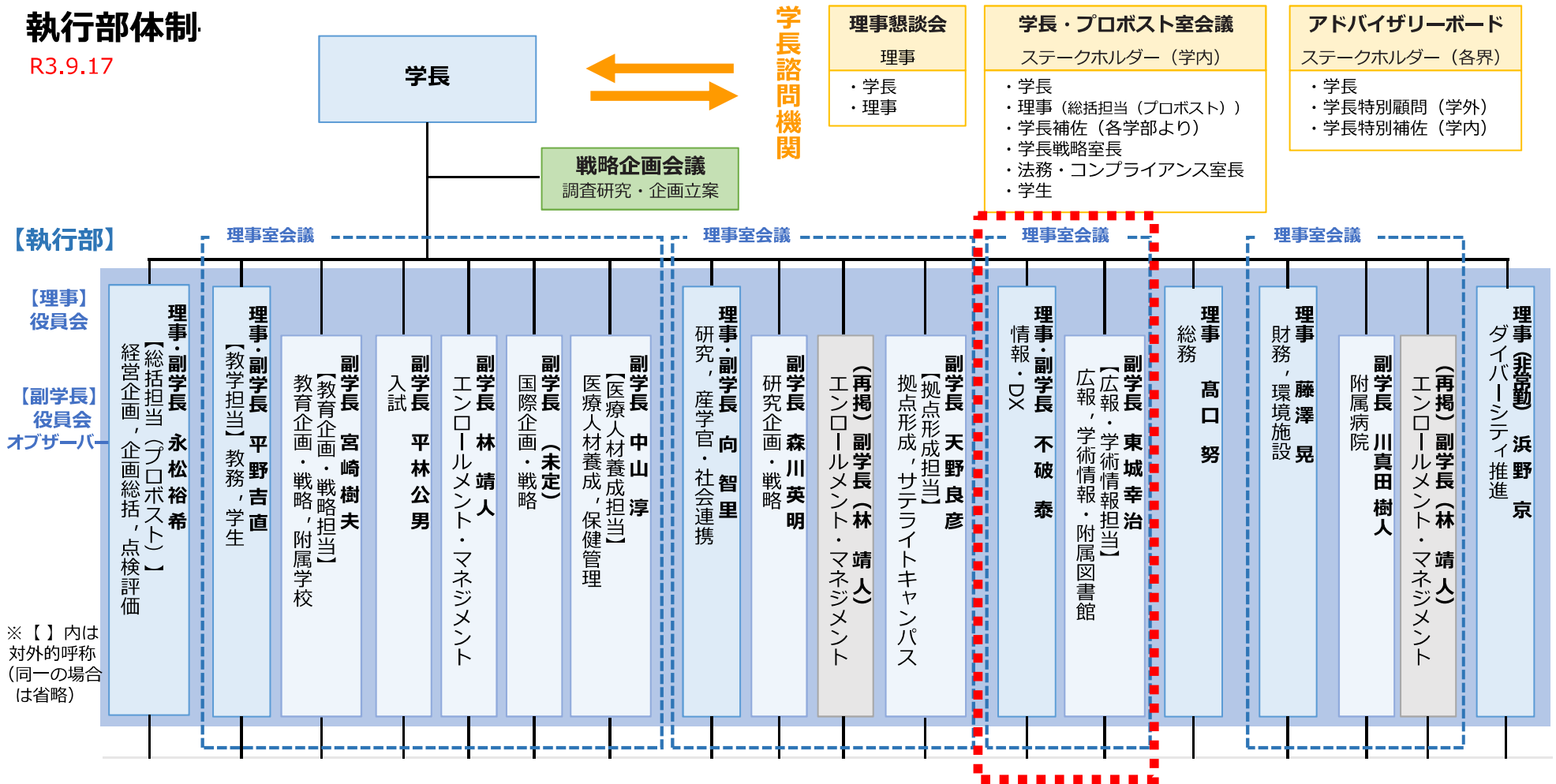
教職学協働によるDX推進

地域との連携（信州DX推進コンソーシアム）

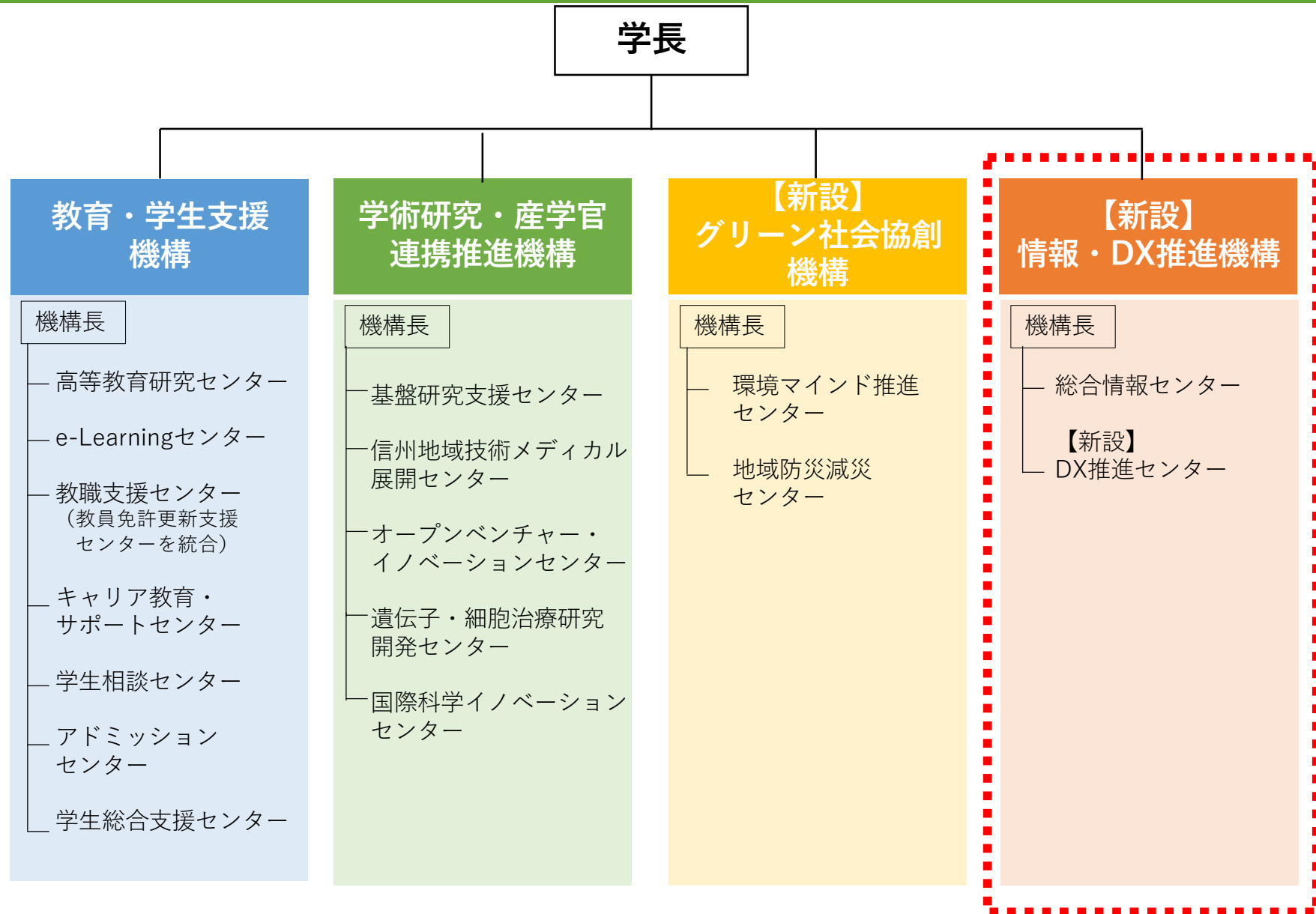
DX推進体制の整備

執行部体制

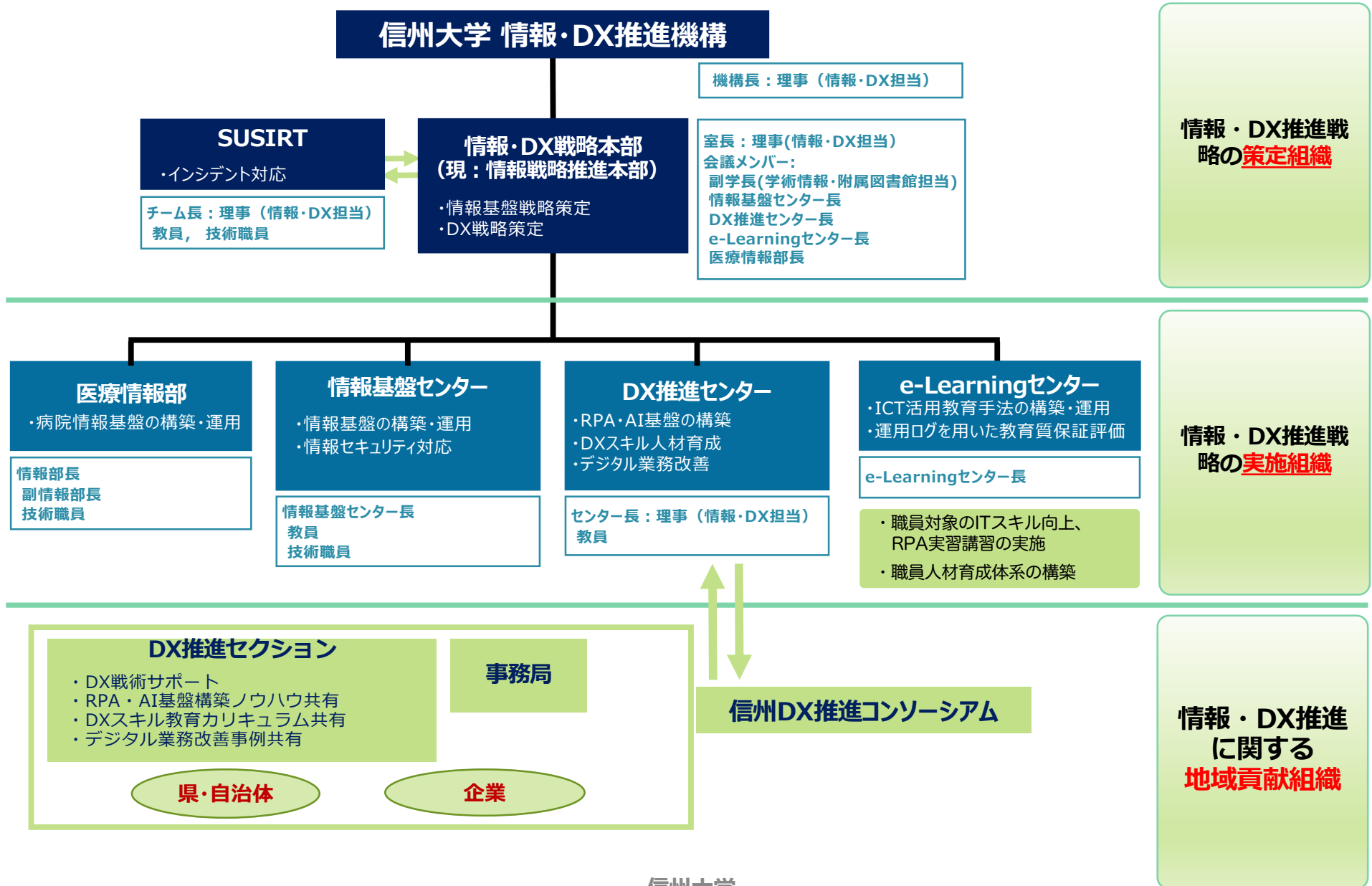
R3.9.17



DX推進体制の整備



DX推進体制の整備



Agenda

DX推進体制の整備

体制の充実

自治体・企業からの事務スタッフ協力

事業資金調達

DX推進人材の確保

大学職員向けDX研修

教職学協働によるDX推進

地域との連携（信州DX推進コンソーシアム）

体制の充実 自治体・企業からの事務スタッフ協力

企業・自治体との包括連携協定

2021.3 KDDI様（教育・産業・通信等多分野での連携）

シェア ツイート メールで送る 印刷する

令和3年3月2日、信州大学は、KDDI株式会社との包括的連携に関する協定の締結と調印式を東京のKDDI本社とリモートにより行いました。

信州大学の「幅広い教育研究」「学びの拠点」「起業家人材育成」「高い地域貢献度」、KDDIの「通信・ICT・企業育成などの多彩なアセット」「5G等の通信技術」など、相互の資源を有効に活用し、教育・学術・産業等の分野で協力をを行います。

大学発ベンチャー企業などの支援を通じて、『次世代地域産業をリードする人材の育成と産業振興、地域活性化を促進する』ことを取り組んでまいります。



調印の様子
 演田州博学長による挨拶
 KDDI株式会社 松野茂樹理事 経営戦略本部副本部長に
 (左)KDDI株式会社 松野茂樹理事 経営戦略本部副本部長
 (右)演田州博学長

職員2名が交代で大学に
週4日常駐

2022.4 UiPath様（RPAによる業務自動化分野での連携）

シェア ツイート メールで送る 印刷する

令和4年4月25日、信州大学は、UiPath株式会社との業務自動化推進に関する協定の締結と調印式を信州大学松本キャンパスにて行いました。

調印式には、信州大学より、中村学長、不破理事(情報・DX担当)が、UiPath株式会社より、長谷川代表取締役CEO(東京オフィスよりリモート出席)、松本執行役員 通信・公共・公益・流通営業本部長が出席し、不破理事から協定に係る概要説明の後、学長と長谷川代表取締役CEOによる協定書の交換が行われました。

本学では、この4月よりDX推進体制の強化を目的として「信州大学情報DX推進機構」を発足させており、本目的を具現化するため、この度、本協定を締結いたしました。

UiPath株式会社と本協定を締結することで、ロボティック・プロセス・オートメーション(RPA)をはじめとしたDX推進ノウハウの共有や、教育カリキュラムの共同開発および人材育成の共同推進、業務自動化推進のみならず地域



PRA利用講習講師、
開発メンター

流通営業本部長、長谷川康一代
 (情報・DX担当)、副学長

2022.4 塩尻市様（DX推進での事業連携）

シェア ツイート メールで送る 印刷する

令和4年3月3日、信州大学は、塩尻市とのDX推進事業連携に関する協定の締結と調印式を信州大学松本キャンパスにて行いました。

信州大学と塩尻市は、平成16年10月に包括的な連携協定を結び、従来から強い連携のもと塩尻市のスマートシティ等に実績を上げてきましたが、このたび両者がDX推進に関して連携することにより、そのノウハウの共有や、教育カリキュラムの共同開発と同カリキュラムを用いた人材育成の共同開催、人事交流などを進めて、より着実なDX推進を目指すことになりました。

先ずは、連携の具体的取り組みの一つとして、本学が令和4年4月に新設する「情報・DX推進機構」において塩尻市の研修職員を受け入れます。情報化とDX推進にかかわる専門的な業務研修を経験することにより、DX推進業務を担当する職員として必要な広い見識と高度な業務能力の育成を図り、もって、信州大学及び塩尻市の情報化・DX推進業務の充実と発展に取り組んでまいります。



職員1名が大学に
週5日常駐

Agenda

DX推進体制の整備

体制の充実

自治体・企業からの事務スタッフ協力

事業資金調達

DX推進人材の確保

大学職員向けDX研修

教職学協働によるDX推進

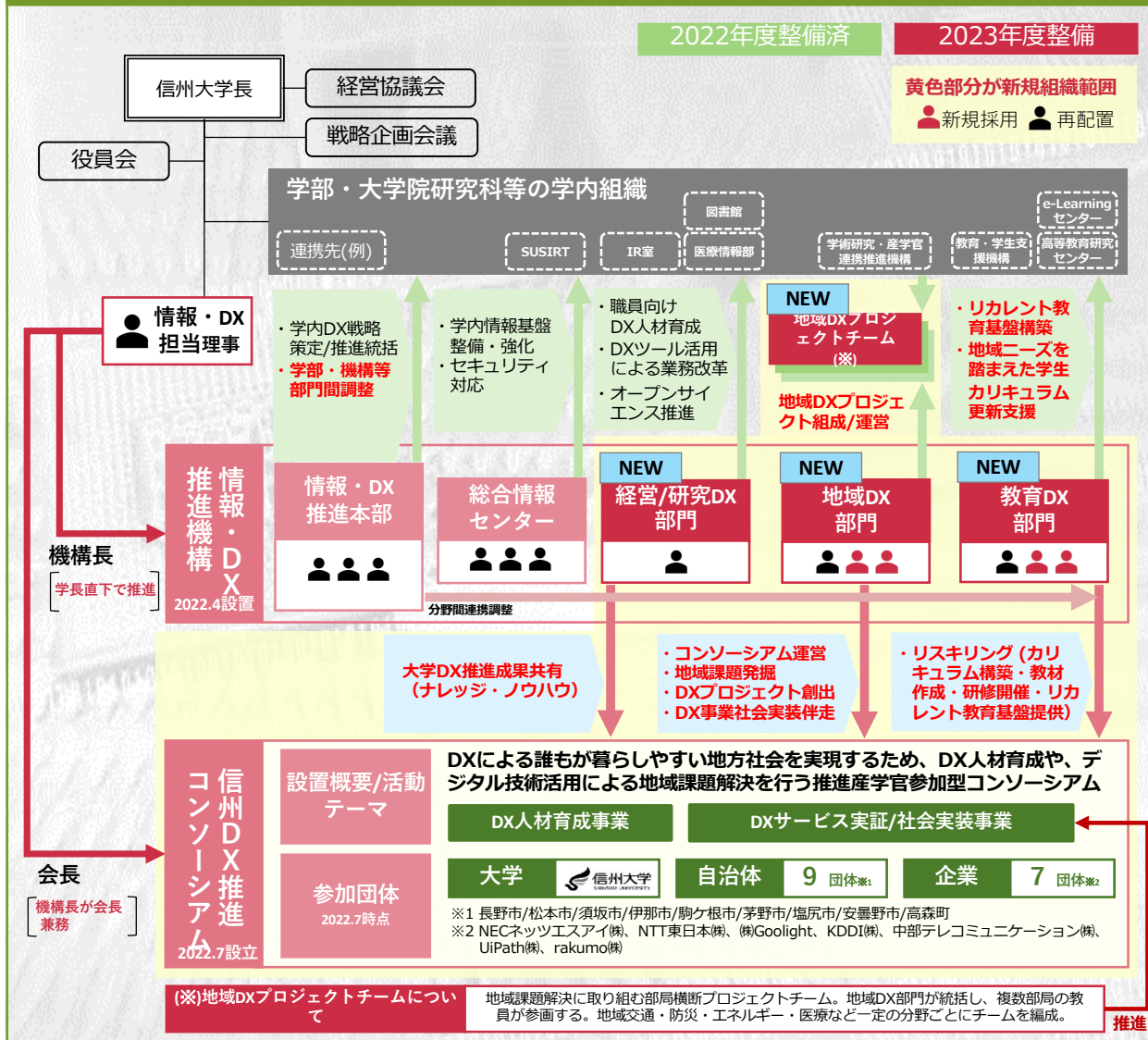
地域との連携（信州DX推進コンソーシアム）

体制の充実 事業資金調達

令和5年度 教育研究組織改革分（組織整備）

大学DX(教育DX/研究DX/経営DX)の統括・主導を担う 情報・DX推進機構を体制強化地域DXを推進する体制を構築

組織の学内配置と役割



大学DX推進における課題

学内の複数の情報システム運用部門が学内システムを運用しているが、大学全体のDX戦略を策定し、事業横断的に推進する体制がない。

2022年度打ち手（実施済み）

- ・4月に機構を設置し教員9名を配置。（7名再配置、2名学長裁量で採用）
- ・学内のDXに着手。

地域DX推進における課題

- ①DX関連の相談が増える一方、現状各部局教員が個別対応しており、対応可能な量・質ともに限界
- ②個別対応では取り組み効果も限定的
- ③社会実装が重要であることから、ビジネスモデル構築などの実務経験者の確保が必要

2022年度打ち手（実施済み）

- ・7月にコンソーシアムを設立
⇒ 産学官連携推進の基盤確保

2023年度打ち手（今回の組織整備）

- ①機構に3部門を新設し機能拡充。地域DXを組織的に主導・推進する体制構築
- ②地域の多様なDXニーズに応えるため、DX推進本部が横串で学部等と調整し、地域DX部門が学内プロジェクトチームを組織
- ③実務経験者の採用により社会実装力を強化
- ④教育DX部門においてDXに特化した人材育成カリキュラムを構築

Agenda

DX推進体制の整備

体制の充実

自治体・企業からの事務スタッフ協力

事業資金調達

DX推進人材の確保

大学職員向けDX研修

教職学協働によるDX推進

地域との連携（信州DX推進コンソーシアム）

DX推進人材の確保 大学職員向けDX研修

事務系職員を対象とした人材育成研修



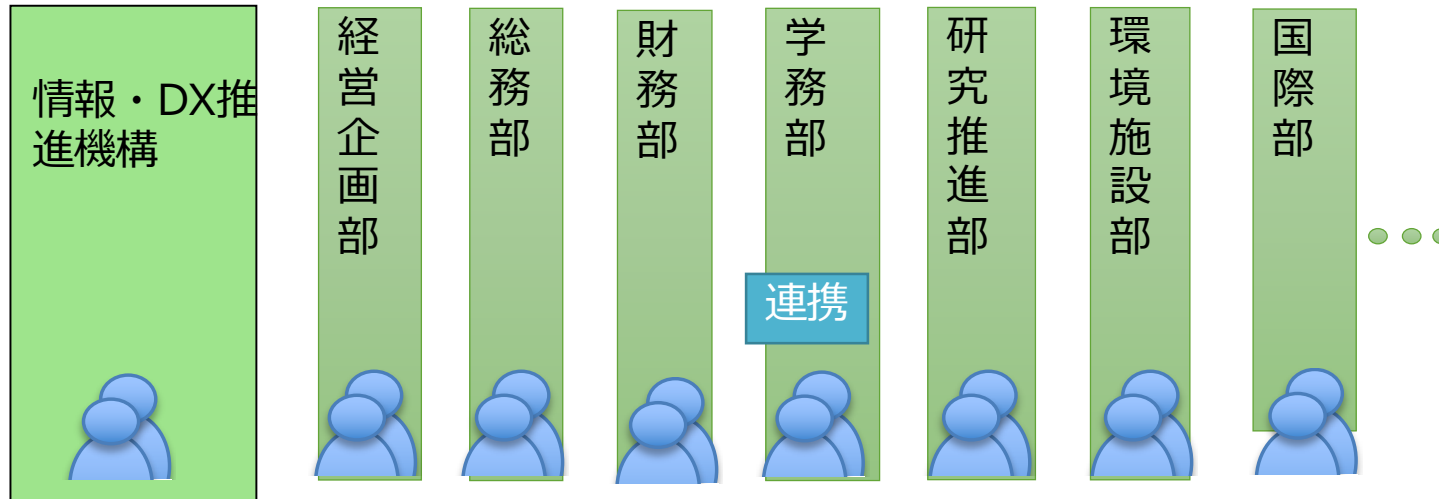
(※1)
RPAによる業務効率化研修の様子。
連携協定を結ぶUiPath(株)と、
RPA開発のスキルをもつ職員が
講師となり、3か月間にわたる
研修を実施した。
2022年度は約20名が参加した。
医学部附属病院では、すでに
RPAによる効果が出ている。



(※2)
次期管理職となる職層を対象
としたDX入門研修の様子。
2022年度は、約50名が
参加した。
主任・主査層向け研修と併せて、
信州DX推進コンソーシアム
会員にも見学として開放した。

DX推進人材の確保 DX人材育成後の目指す姿

DX人材を年10~20人程度育成
各部署に人材を配置し横連携でDXを推進



DX推進のため、各部署に継続的に情報基盤を支える人材の育成（バーチャルな連携組織体制）

- ・ 基本的には、各部署の業務を行う
- ・ 引き続き定期的に情報技術の勉強会を実施
- ・ 横の連携により、DX推進を共同で担う
- ・ 人事異動でも、この連携が維持できるように配慮

人事部門とともに体制づくり・人事評価の仕組みを検討する必要がある
各部署に配置された人員がDXに取り組めるよう業務量を減らす必要がある

Agenda

DX推進体制の整備

体制の充実

自治体・企業からの事務スタッフ協力

事業資金調達

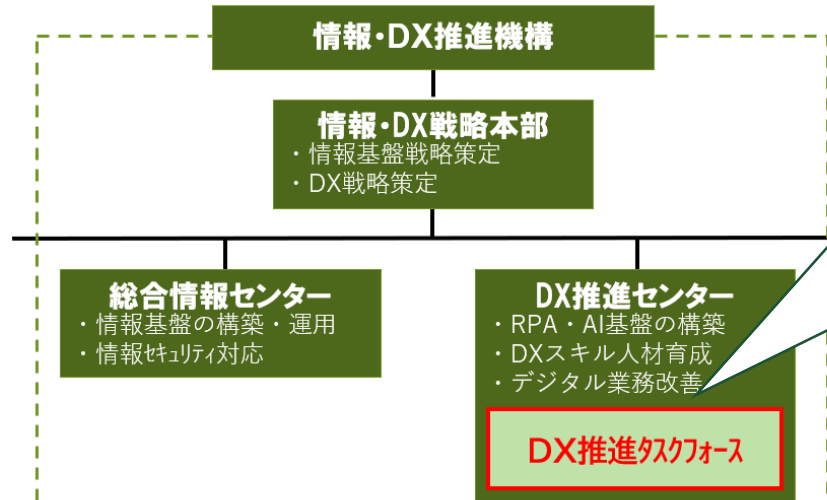
DX推進人材の確保

大学職員向けDX研修

教職学協働によるDX推進

地域との連携（信州DX推進コンソーシアム）

DX推進人材の確保 教職学協働によるDX推進



DX推進センター内に DX推進タスクフォースを設置

大学DXを加速化するため、学生スタッフを雇用し、教員・職員とともに、ノーコード・ローコード開発業務や、地域DX推進サービス開発に取り組む。

想定業務

業務システムの内製開発

学内の業務を効率化するための業務システムの内製開発を実施する。開発にあたっては、実際に業務を行っている事務部門からの要請またはタスクフォースによる調査等に基づく業務効率化案件について、タスクフォースと対象事務部門が連携して仕様策定をはじめ開発をする。(右図「内製開発工程イメージ」参照)

大学業務改善“アイデアソン”(補助業務)

[大学業務改善“アイデアソン”]教職員や学生の体験に基づき、大学業務の抱える課題を分析する。併せて、実際に業務に携わっている事務職員らと共に、業務改善(業務効率化)のためのアイデアを創出し、創出されたアイデアの実現を目指す。

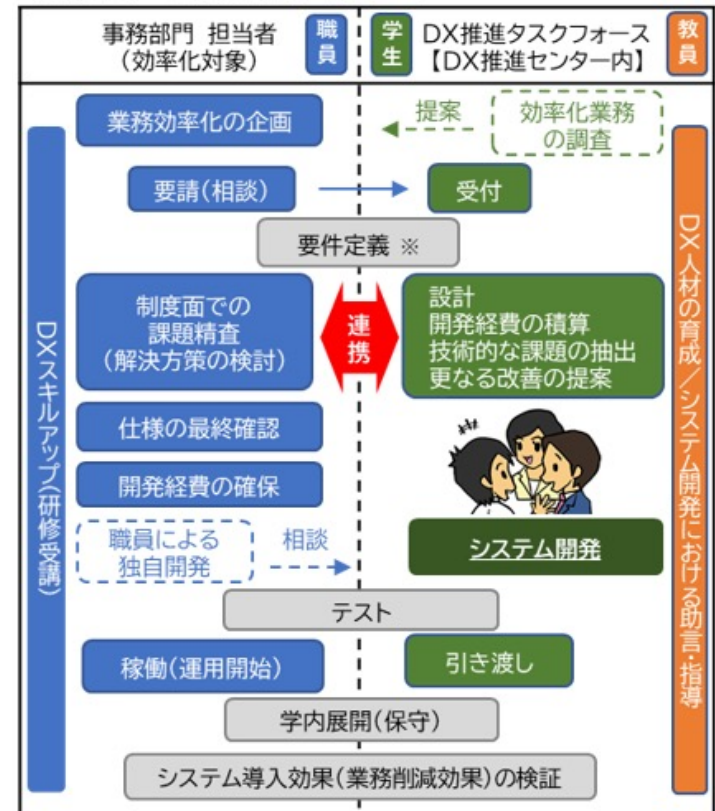
信州DX推進コンソーシアムとの連携(補助業務)

7月に設立された「信州DX推進コンソーシアム」の各種取り組みを補助し、地域貢献に参画する。

総合情報センター業務補助

学内情報基盤整備やセキュリティ対応業務等、センター業務の補助をする。

業務システムの内製開発工程イメージ

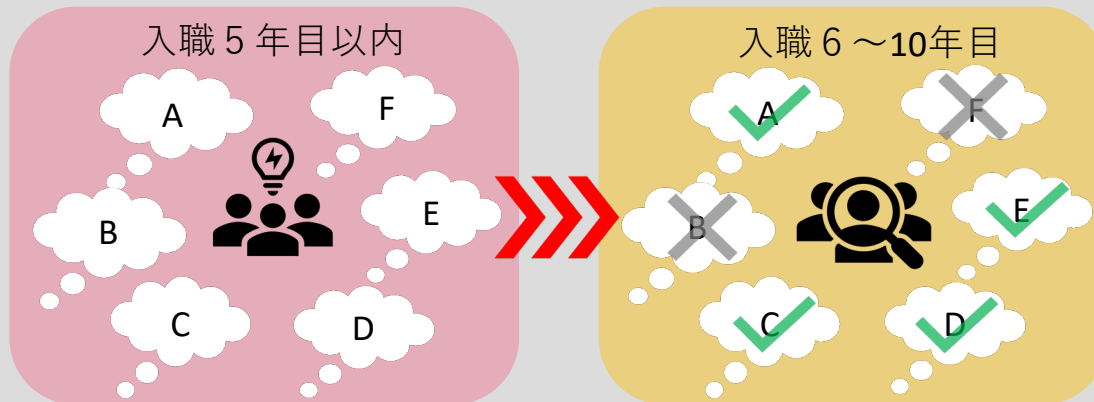


DX推進人材の確保 教職学協働によるDX推進

概要

- ① 入職5年目以内の職員によるアイデアソン実施
 - ② ①で出されたアイデアについて、入職6～10年目の職員がこれまでの経験を基に実現見込を検討
 - ③ 実現見込ありと判断されたアイデアを関連部署に業務改善案として提案
 →内製開発は業務システム開発を主とした「DX推進タスクフォース（R5.4設置予定）」にて対応
 （リソースは学生の事務補佐員雇用を予定）
- ◎ ①・②を「総務系」「財務・研究支援系」「学務系」の3グループで実施

若手職員によるアイデアソン



- 若手の柔軟な発想で自由なアイデア出し（実現難度は不問）
- ファシリテーターや有識者として先輩職員・上司が若手職員をサポート

- 一定程度経験を積んだ職員が
 - 実現の見込み・プロセス
 - アプローチする業務区分を検討
- 実現見込のあるアイデアを関係部署に提案・合意形成

DX的側面からアプローチ



その他（総務・財務等）の側面からアプローチ



Agenda

DX推進体制の整備

体制の充実

自治体・企業からの事務スタッフ協力

事業資金調達

DX推進人材の確保

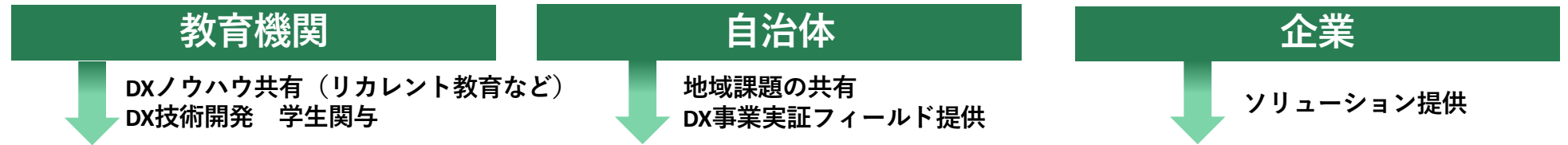
大学職員向けDX研修


教職学協働によるDX推進

地域との連携（信州DX推進コンソーシアム）

地域との連携（信州DX推進コンソーシアム）

概要





目的
デジタルトランスフォーメーション（DX）により地域の諸課題を解決し、地域の人々が安心して暮らせる持続可能な地域社会を実現するため、教育機関、国・地方公共団体、企業等の幅広い関係者が相互に連携・協力し、人材育成やデジタル技術を活用したサービスの創出・実証実験・社会実装に取り組む。

運営主体・事務局
信州大学 情報・DX推進機構

設置日
令和4年7月25日

主な取組テーマ
DX人材育成 デジタル技術を活用した地域課題解決事業の取組み推進

信州DX推進コンソーシアム

DX人材育成（一例）

- DX人材育成基本方針などの計画策定支援
- DX人材育成のための各種研修の実施 And more...

ラーニングパスイメージ

DX基礎研修

- ビジネスプロデューサー向け研修
- ビジネスデザイナー研修
- データサイエンティスト研修
- エンジニア研修
- UXデザイナー研修

(IPA「IT人材白書」よりDX人材定義を一部抜粋)

地域課題解決の取り組み（一例）

- DX推進計画策定支援
- DX技術を活用したまちづくりの社会実装

防災DX 医療DX

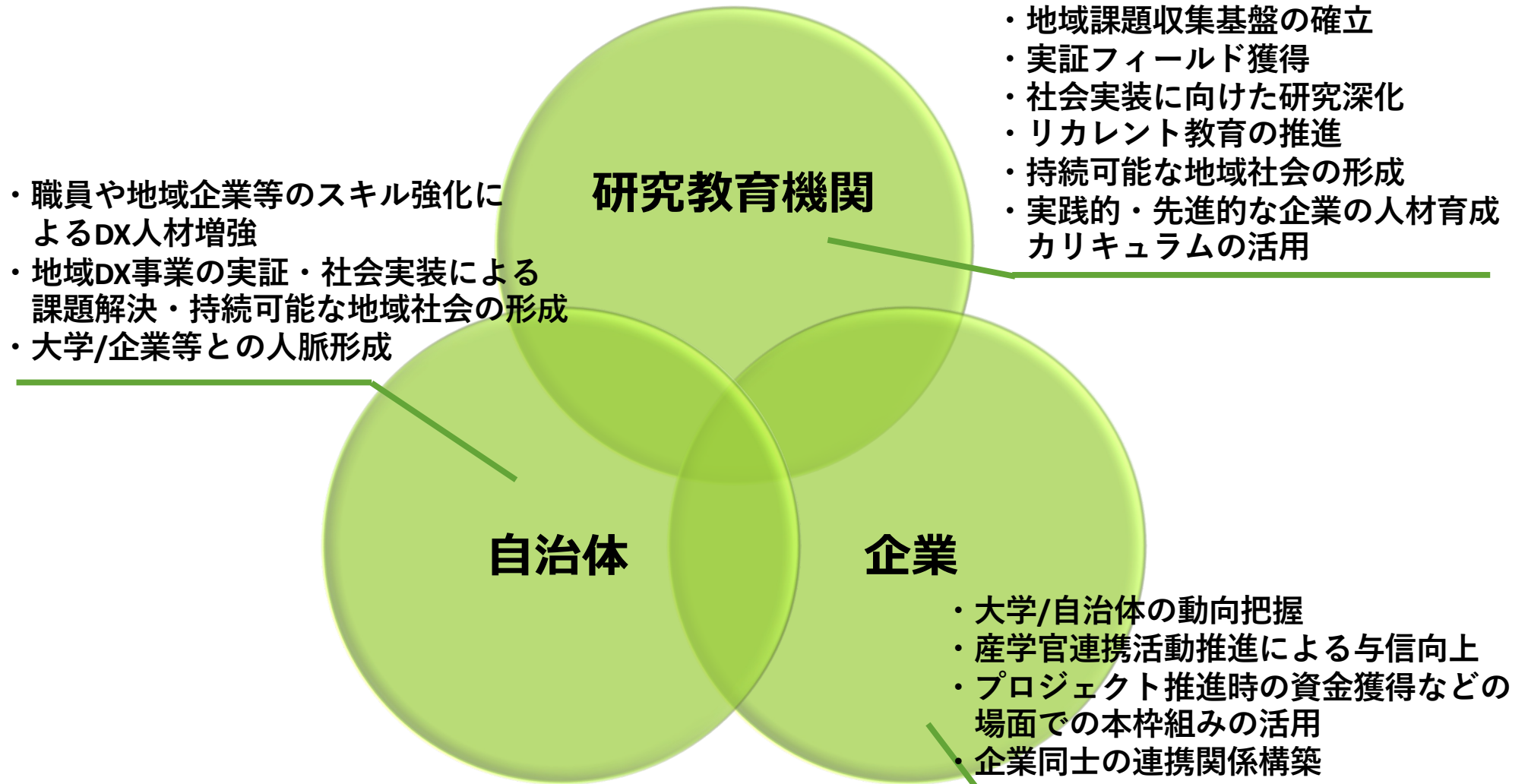
環境DX 庁内DX

スマートシティP/F

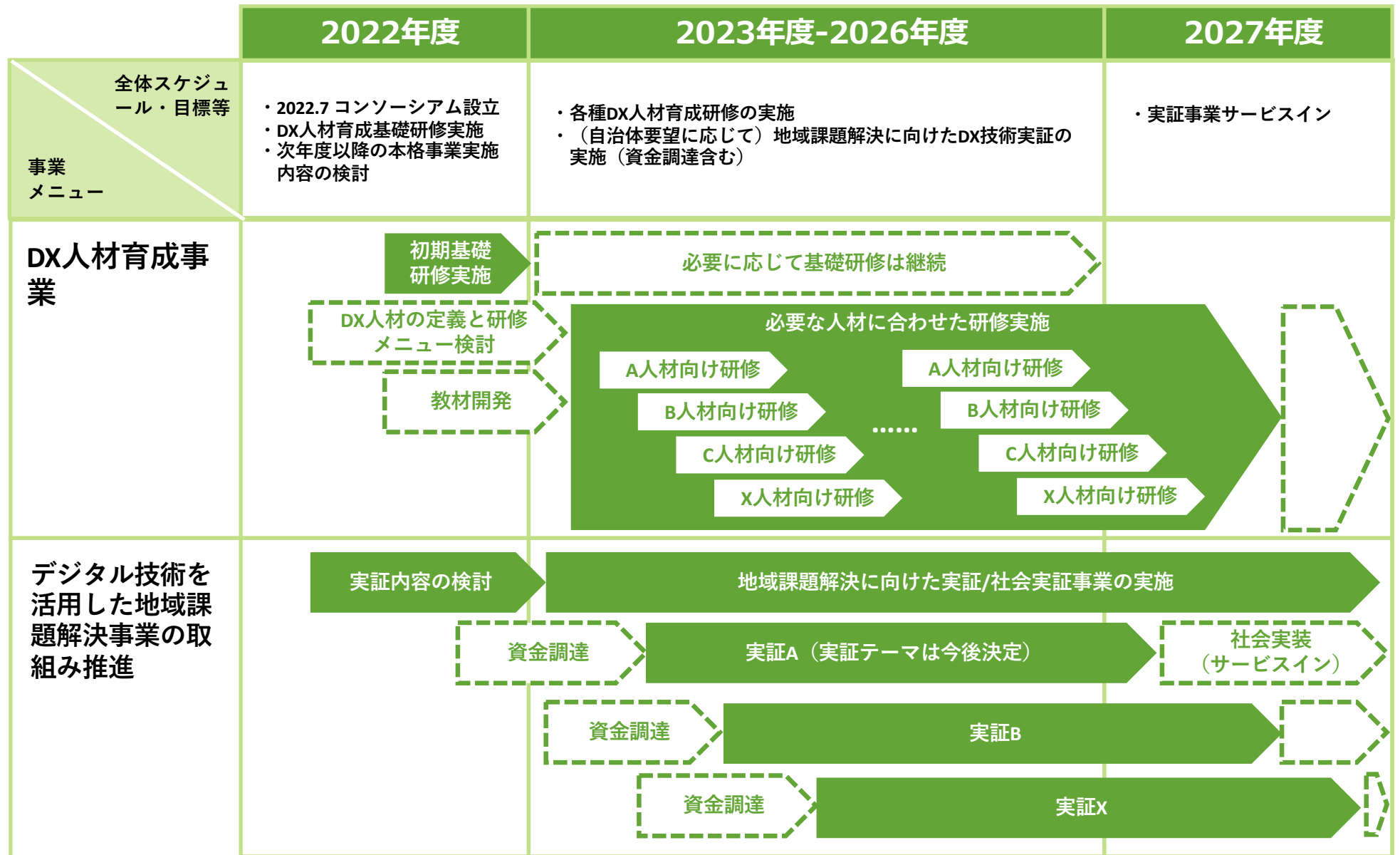
(文科省HPより抜粋)



地域との連携（信州DX推進コンソーシアム）活動のメリット

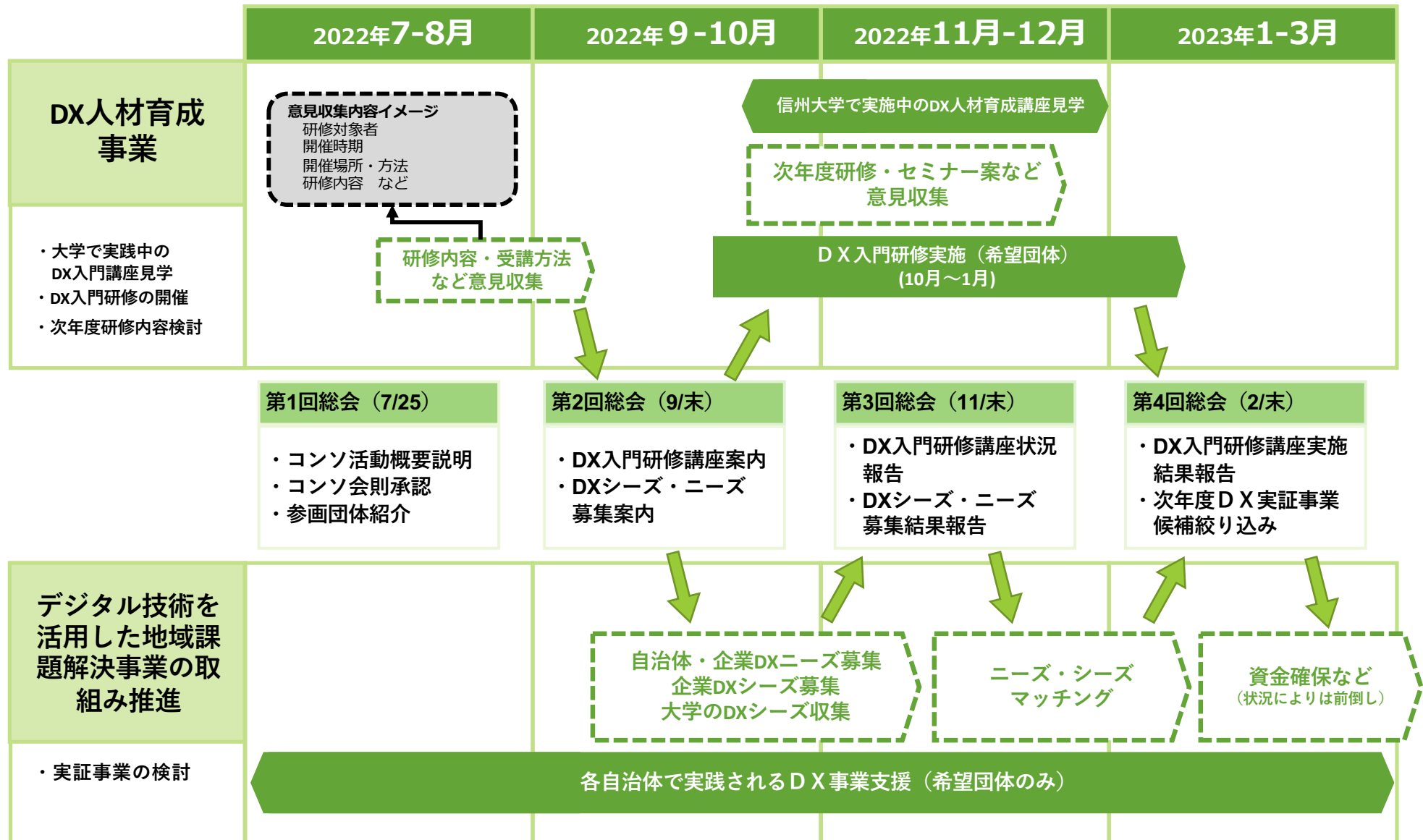


地域との連携（信州DX推進コンソーシアム）全体スケジュール



地域との連携（信州DX推進コンソーシアム）

2022年度の実績



地域との連携（信州DX推進コンソーシアム） 2023年度の活動予定

